

平成30年3月30日

釜石市議会議員 佐々木 義 昭 様

会 派 21世紀の会
代 表 木 村 琳 蔵
佐々木 義 昭
後 藤 文 雄
報告者 千 葉 榮



「会派視察報告書」

当会派所属議員による視察研修を下記のとおり実施しましたので、報告いたします。

1 【視察項目】

- (1) 「被災者の心理」について
- (2) 「惨事ストレスと対処法」について

2 【視察日程】:平成30年3月22日(木)～平成30年3月23日(金)

(1) 視察行程

- ① 平成30年3月22日(木) ※ 東京消防庁麹町消防署7階会議室
- ② 平成30年3月23日(金) ※ 釜石市へ移動日

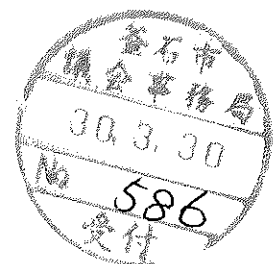
3 【参加者】

(1) 「21世紀の会」

- ・ 木 村 琳 蔵 (代 表)
- ・ 佐々木 義 昭
- ・ 後 藤 文 雄
- ・ 千 葉 榮

4 【相手方】

- (1) 東京都千代田区麹町 6-6 東京消防庁 麹町消防署内
NPO 法人日本消防ピアカウンセラー協会



5 【研修概要】

(1) 研修日及び研修課題

- ① 平成30年3月22日(木)
 - ・午後1時30分～午後2時30分
 - 「被災者の心理」について
 - ※10分休憩
- ② 平成30年3月22日(木)
 - ・午後2時40分～午後3時40分
 - 「惨事ストレスと対処法」について

(2) 視察先対応者

- ① NPO 法人日本消防ピアカウンセラー協会
 - ・副理事長 幾田雅明 様
 - ・惨事ストレス研究員 秋本陽子 様

(3) 視察に取り上げた理由

① 《被災者の心のケア等の対応》

東日本大震災から、8年目に入った当市では、復興公営住宅が約9割完成し、他の主要な公共施設も建設となった。

平成32年度には復興支援を一区切りとする国の対応に対し、ハード面に於いては一程度の進捗は見受けられるところである。しかし、復興公営住宅等で住居を確保したものの高齢の上、一人暮らしで将来の生活に不安を持っていたり、住民同士のコミュニケーションに馴染めない方々が多くいる。更に震災で、掛け替えのない家族や兄弟を失い心の傷が、いまだ癒えていない方々は少なくない。この事は、高齢者のみならず震災孤児や被災した子どもにとっても深刻な問題である。そこで私達としても、決して専門の分野ではないが、当市に震災直後から、現在まで「心のケア」の指導している東京消防庁の幾田氏・秋本氏に「被災者に寄り添う心のケア」のアドバイスをお願いした。

ア 「開会」

- ・惨事ストレス研究部会員・秋本陽子氏の進行で始まり、まず、はじめに、佐々木義昭議長のお礼の挨拶、そして、NPO 法人 日本消防ピアカウンセラー協会 幾田雅明副理事長の歓迎のあいさつの後、研修を行いました。

イ 「被災者の心理」について

・午後1時30分～午後2時30分

「被災者の心のケア」等について、秋本陽子氏が別添資料により説明した。

(※10分休憩)

ウ 「惨事ストレスと対処法」について

・午後2時40分～午後3時40分

「惨事ストレスと対処法」等について、幾田雅明副理事長が別添資料により説明した。

エ 「主な質疑応答」

《被災者の心理》

Q：被災した場合、被災者は、どのような心理状態になるものなのか。

A：被災すると、自分自身が傷付き、身近な人を失ったり、衣食住を失ったり、様々なものを失うことで、日常的ストレスに加え、非日常的ストレスにより、多大な負荷がかかってくる。

Q：災害救援者、たとへば、行政とか関係機関も住民のストレスへの共感、住民からの叱責や怒りによるストレスを抱えると思えますが。

A：特に行政は、誰にも相談ができないことから、感情を押し殺し、ストレスを抱えながら働いている。また、交換要員がいないことから、十分な休憩がとれないし、使命感から限界まで働き、燃え尽きるケースもある。

《惨事ストレスと対処法》

Q：東日本大震災後の心に反応（トラウマ）が出現するのには、何かわけがあるのでしょうか。

A：通常の記憶として処理されて行けない記憶の消化不良と考えられ、外傷的出来事が続いていると脳が認識して、臨戦態勢になってしまう。トラウマ体験は、なかなかすんなり過去にならなくて、難しいが、心に、あたりまえ、という理解を持つと楽になる。

Q：東日本大震災後の惨事ストレス対策はどのようにすればいいのか。

A：人間は、常に様々なストレスを受けていることは、ご理解いただいていると思いますが、大災害にあった人間は、心に傷を負うことを理解することが、心の傷を修復する、まず、第一に必要な事だと思います。

エ 「視察所感」

当市では、東日本大震災後、住居を確保したものの高齢のうえ、一人暮らしで、将来の生活に不安を持っていたり、住民同士とのコミュニケーションに馴染めない方々や心の傷が癒えていない人が多く、私達、議員も決して専門の分野ではないが、今回、NPO 法人日本消防ピアカウンセラー協会の方々から、「被災者の心のケア」の研修を受けたことを活かし、会派として、釜石市民のために活かしていきたい。

6 【その他】

別添、写真、資料参照